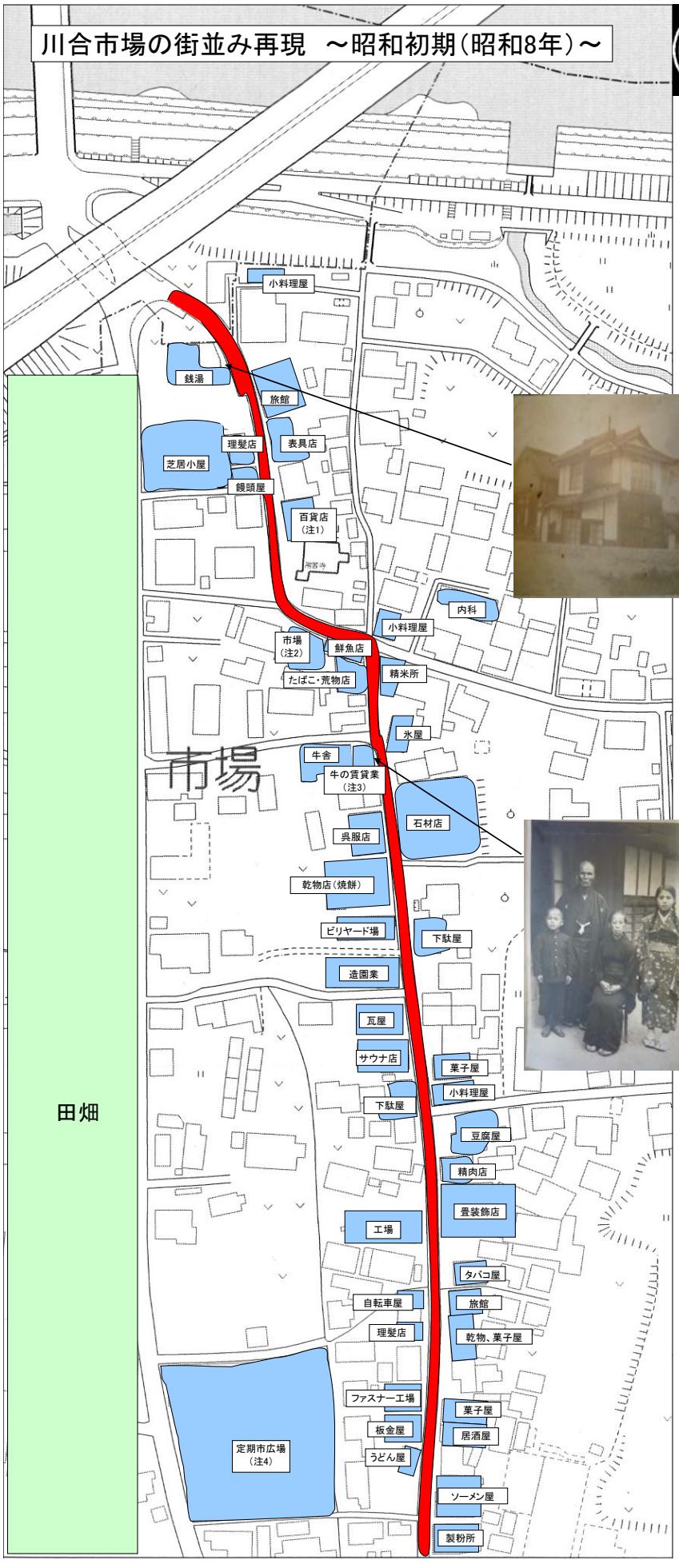
川合市場の街並み再現　～昭和初期（昭和8年）～



当時の出来事

【世界】
・ヒトラーが独首相就任
・フランクリンルーズベルトがニューディール政策実施
・メジャーリーグ初のオールスターゲーム開催
・キューバでバティスタが軍事クーデターを起こす

【日本】
・国際連盟脱退
・現（平成）天皇陛下誕生

【河合町】
・「川合城主吉田山城守義辰并一族墓」碑建立
（穴闇に石碑があります）

当時の川合市場の様子

・南北に走るメイン通りには、お菓子屋や、小料理屋が立ち並んでおり、子どもの数が多かったことや、仕事の後の楽しみの場があり活気がありました。
・旅館があったことで、地方から仕事や、旅行で来られていた方がいて、賑わっていました。
・道は砂利道で常に歩いて行動していました。
・当時の人々は、そこに住んでいる人々が互いに家族のような存在で、他人の子供でも悪いことをすれば怒るし、困っている人がいれば、進んで話しかけるような環境でした。
・産気づいた人がいる家庭では、道行く人に産婆さんを呼んでくれるよう頼むこともありました。

備考

・赤で示した通りのお店などを中心に再現しています。
・水色部分が当時、お店などをしていたところです。
・この地図は、皆さんがイメージしやすいように、現在の川合市場地区の地図を基に作成しております。
・大正10年生まれの川合市場在住の方から聞き取りをしました。

（注1）
百貨店とありますが、現在で言うところのコンビニエンスストアのような販売店です。

（注2）
大阪湾と奈良盆地を結ぶ重要な交通路であった大和川沿いには、御幸ヶ瀬（ごごがせ）と呼ばれる船着き場（現在の御幸橋付近）がありました。多くの物資や人が行き交うこの場所が、多いに賑わったことから「市場」と呼ばれるようになりました。

（注3）
当時は、牛を引かせて田畑を耕す方法であったため、その牛の賃貸業です。

（注4）
月に1度この場所で今で言う、フリーマーケットのような、催し物がありました。